

シラバス参照

科目名	農業経済論Ⅰ
配当年次	3年次
開講期間	春学期
単位数	2
担当教員	望陀 芙美子(モウダ フミコ)
期間・曜日・時限・教室	春学期 水曜日 1時限 23－210

※	
授業の目的・目標	■授業の概要 農業経済学の基礎的な理論を理解することにより、現実の経済問題を考え、分析する力をつけます。 ■授業の目的 本講義は、生産、流通、消費の三局面から構成され、これら三局面を通して「食と農」について基本的に理解することが求められます。それと同時に国際的視点からの分析を含めて講義が行われるうえ、グローバルな観点からの理解も求められています。よって、農業経済学の基本的な理論や既存の農業・食料政策の成り立ちと仕組みを理解することを目的としています。 ■修得できる力 経済学部ディプロマポリシーに記載された ① 経済学についての基礎知識を修得している。(○) ② 教養教育を通じた批判的思考・論理的汎用力を修得している。(△) ③ 経済学を中心とする社会科学の知識をもとに、現代経済社会の諸問題について主体的に考えて分析し、解決策の提案ならびに考察できる。(◎) に関する素養の修得を目指すものです。 ■授業の到達目標 農業経済学を応用し最近の経済社会問題を理解できるようになることを目標としています。 以上に加えて、上記【■授業の目的】であげた多様な能力、素養を身につけることが、本授業の到達目標です。
準備学習等の指示	(1) 授業に関する連絡、課題の呈示・提出、履修者とのコミュニケーションは、すべてWebClassを利用して行います。履修者は、授業開始までにWebClassを確認して下さい。 (2) 1回の授業につき3時間30分の授業の準備・ふりかえり学習を自ら積極的に実施してください。 (3) 日頃から新聞に目を通すことと同時に、様々な情報端末に触れるよう心掛けてください。
講義スケジュール	1. はじめに 「食」と「農」とは何か、授業の目的・概要、評価方法について 2. 食生活の現状 食料経済で使用する統計資料、食料供給の現状、海外との比較を理解することができる。 3. 食料経済の基礎理論Ⅰ 食品の需給システムを理解することができる。 4. 食料経済の基礎理論Ⅱ 食料需給に影響を与える他の要因、生鮮食品の価格変動を理解することができる。 5. 食料経済の基礎理論Ⅲ 不安定な農産物価格を理解することができる。 6. 食料経済の基礎理論Ⅳ 農産物価格の安定政策(1)を理解することができる。 7. 食料経済の基礎理論Ⅴ 農産物価格の安定政策(2)：政府による市場介入を理解することができる。 8. 食品流通業Ⅰ 卸売市場の役割、流通経費、各市場(青果物、水産物、食肉)を理解することができる。 9. 食品流通業Ⅱ 市場価格(価格変動)、市場外流通の増加、小売市場における競争メカニズム、商品特性を理解することができる。 10. 食の安全性 食の安全性とは、食の安心システムを理解することができる。 11、12. 生鮮食料品の流通Ⅰ、Ⅱ 生鮮食料品の流通を理解することができる。 13. まとめ 春学期の内容を理解し、整理することができる。
教科書	授業時に指示します。
参考文献	高橋正郎編(2010)『食料経済 第4版』、理工学社。 在開津典生、鈴木宣弘(2020)『農業経済学 第5版』、岩波書店。 半谷俊彦・山田 久・大久保研治・柴田有祐・清水雅貴・葉山幸嗣・望陀芙美子(2014)『これだけはおさえた経済学: 学びのガイダンス (Primary 大学テキスト)』、実教出版。
授業の方法	講義・演習形式に加えて、ディスカッション、ディベート・グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れます。講義も双方向のコミュニケーションを含みます。 アクティビティごとのふりかえりや質疑等に対しては、教員からフィードバックを行います。

成績評価方法	※学則にしたがい、授業時数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象となりません。 (1)評価 筆記試験、課題、授業貢献度・参加態度、各種検定の取得・受験状況(授業開講期間に限る) ※各種検定:食生活アドバイザー3級または2級、経済学検定試験(EREマクロ、ミクロ)、環境社会検定(eco検定)。 (2)割合 筆記試験70%、課題20%、授業貢献度・参加態度10%、各種検定の取得・受験状況+ α 加点対象。 (3)評価基準 すべての課題が提出されることを最低基準として、「授業の到達目標」の達成度に応じた評価を行います。
オフィスアワー	出校日の昼休み
居室	望陀研究室(23号館 4階 430号室)
ホームページ	
その他特記事項	本科目は「農業経済論Ⅱ」(担当:望陀美美子)と連動していますので、両科目の履修を薦めます。
添付ファイル	